

【実施署：南信森林管理署】

平成25年8月5日から9日にかけて、私は中部森林管理局南信森林管理署でのインターンシップに参加した。大学での講義を通じ、林道開設工事、治山工事、集材、造材、保育作業、食害防止、森林経営などについては一通りの知識を得てはいたが、実際の現場を見ることでそれらについての理解がさらに深まり、また、多くの新たな発見もあった。その発見で特に私を驚かせたのが、林業作業に要する労力の膨大さについてである。実際の伐木現場を視察することで、高性能林業機械の導入の必要性や路網拡充の意義について考えを改めさせられた。さらに、講義で習った内容とは異なる現実を知ることとなった。

今回のインターンシップを通じて特に私が印象的だった現場は、4日目に行った林道開設工事現場である。講義や書籍などで林道の拡充は、材の搬出や高性能林業機械の導入などのために必要であると言われているが、実際の現場でその作業の大変さを目の当たりにすると、それは容易なことではないと感じた。現場ではクローラー駆動のダンプとバックホーを用いて路面を厚くする作業と締固め作業を行っていたが、傾斜地での重機による作業には熟練した操縦技術が必要である。困難な作業が必要な林道工事だが、山林整備を行う上では必要な設備であると感じた。

シカの食害防止の取り組みについても多くを学んだ。私が今回見た山の中にも食害の跡が見られた。下層植生の保護や高山植物の保護、樹木の被害防止は森林整備の上でも重要な課題である。シカの個体調整に関する行政的な区分や、防除方法、狩猟方法を知ることができた。

地すべり防止工事現場では、普段ならば決して見ることもない崩壊現場のすぐ近くまで行き、見学することができた。また、地下水を排出し、さらなる地すべりを防止する設備の見学もした。高山地域での大規模な土木作業は大変な労力を要するものだが、流域の安全を守るための治山工事の必要性を改めて認識した。

保育、間伐作業では、高性能林業機械による伐倒と架線集材、下草刈りの現場を見学した。高性能林業機械の機能を見ると、その導入の必要性が強く感じられた。また、下刈りなど人力での作業にかかる負担、架線集材の利便性については、実地での観察を得ることで新たに知るところとなった。

今回のインターンシップを通じ、森林で行われる作業の監督を行う上での行政機関の働きについて、その意義や役割を改めて考えさせられた。また、私自身の林業全般に対する見識の低さも明らかとなり、今後学習していく上でも良い経験となった。